

公式ワナゲ

輪投げの起源は諸説ありますが、ゲームとしては、紀元前200年頃のヨーロッパで、馬の蹄鉄（ていつ）を使って行われていたという記録があります。

新大陸アメリカではカウボーイの文化「ホースシューズゲーム」として発展し、19世紀以降にはルールが整備され、誰もが楽しめるスポーツとして普及しています。

日本には、中国を経由して仏教などととも伝わってきたとされていますが、アメリカのようにゲームとしての進展はなく、縁日などでの遊びとしての性格が強いものでした。

ちなみに、中国に伝わったときに、蹄鉄の形から輪に変形したと言われています。

戦後、日本においてスポーツとして普及させようと、独自のルールや用具の整備を進める動きがあり、「公式ワナゲ」というニュースポーツとして生まれ変わりました。

1967年には日本ワナゲ協会が設立され、「遊びから生涯スポーツへ」と、各地の老人クラブなどを中心に普及されてきました。



☆ルール

(1) 単独投輪方式「参加者数の多い大会の予選向き」

- ① 9本のリング（赤4黄4青1）を続けて全部投げる。
- ② リングを投げるときは、どのように持っても構わないが、必ず片手で輪を持ち投輪ラインの手前から投げる。その時両足は地面に接していなければならない。また、ラインを踏んだり越したりしてはならない。投げ方に違反があった場合は、そのリングは無効として取り除く。
- ③ 無効リングによって、既にポールに入っているリングが外れた場合は、外れたリングを元通りポールに戻す。但し、ワナゲ台に乗っていたリングが移動した場合はそのままにし、一度床に落ちたリングがその後台上に乗った場合は、その都度リングを取り除く。
- ④ ワナゲ台の上に乗っているがポールに入っていないリングが、その後のプレーでポールに入った場合、有効得点となる。
- ⑤ 得点は、9本全部のリングを投げ終わった後、次のプレーヤーが計算する。

【得点】

- ① ワナゲ台のポール下にある数字が得点となる。
- ② 縦横斜のいずれか1列にリングが入った場合は『一期の原則』により $15 \times 2 = 30$ の点数になる。全部のポールに1本ずつリングが入った場合はパーフェクトで300点となる。

(2) 交互投輪方式「競技者だけでなく観戦者も充分楽しめる大会の決勝向き」

- ① ジャンケンで勝った方が先攻（赤4本）負けた方が後攻（黄4本）となり、1投ずつ交互に投輪する。『負け後攻の原則』
- ② 青リング（アンカーリングと呼ぶ）は投輪ライン付近の、投輪に支障のない場所に置く。＊リングの投げ方、有効得点、無効得点は単独投輪方式を参照。
- ③ 各4本ずつリングを投げ終わり、互いの点数を確認した後、点数の低いプレーヤーには、「アンカー権」が与えられる。同点であった場合は、アンカー権は施行されない『和の原則』。
- ④ 得点は、アンカーリング投輪後に互いの点数を確認する（相互審判）。
- ⑤ 1試合は3セットで競い、2セット以降は前セットで負けた方が後攻となる。『負け後攻の原則』。
- ⑥ 1試合3セットマッチで、2セットで勝敗がついても3セットまで行う。
- ⑦ 勝敗は、2セット以上勝った方が勝ち。同点の場合は総合点の高い方が勝ち。それでも同点の場合は「一投勝ち」で決める。
※「一投勝ち」とは、各自1本ずつリングを交互に投げ合い、点数の高い者を勝ちとする方法である。それでも同点の場合は、勝負が決まるまで投げ合う。

【得点】

- ① 得点の数は単独投輪方式と同じ。
- ② アンカーリングにも『一期の原則』が適用される。

